

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691100051		
法人名	ふるさと企画有限会社		
事業所名	グループホーム大手町 和心		
所在地	山形県新庄市大手町1番25号		
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 1 日	開設年月日	平成 21 年 11 月 1 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 2 年 9 月 18 日	評価結果決定日	令和 2 年 10 月 12 日

(ユニット名 2F)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市の中心部に位置しており、例年なら新庄祭りや花火も眺めることが出来る恵まれた環境にある。市民プラザや図書館などの公共施設や公園、商店街が歩いて行ける距離にあるため、催し物や地域との交流にも気軽に参加出来る。買い物や散歩・ドライブなども地の利を活かしている。また、同町内にあるGH大手町との交流や協力体制も整っている。「共に笑ってつながって」の理念のもと、感性と感情に触れる交流をし、ご家族がなかなか連れて行けない場所へも職員と外出して自然と触れ合うなど非日常を楽しんでいる。また、安心できる環境づくりに日々努め、普段からご家族の思い・悩み・不安に耳を傾けながら情報交換を密に行い、信頼関係を築きながら、笑顔ある穏やかな暮らしを送るお手伝いをさせて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者に笑顔になってもらうのが認知症介護の基本と捉え『共に笑ってつながって』の理念を掲げ、利用者・家族等・職員と繋がり馴染んで暮らしています。事業所近くには公共施設や公園があり、地域交流にも参加しやすい環境にあります。いつもの年と違い新型コロナ禍にあり、生活の範囲が狭められ中々思いどおりの外出や面会など出来ないですが、出来る事をしながら利用者也安心して穏やかな日々を過ごしグループホーム本来の暮らしを送っている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	☐	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	☐	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:29,30)	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
61	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	☐	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	リビングや事業所内に理念を掲げ、全職員が常に意識出来るようにしている。また、ホーム便りや運営推進会議の資料にも毎回理念を載せている。所内研修時にも確認している。	「共に笑ってつながって」を理念とし、職員はケアの基本と捉えている。利用者との会話も表情を見ながら時には冗談を言い笑ってもらい、常にありがたい言葉を大切に実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧板や資源回収への協力をしている。外壁に掲示板を設置し、地域への発信をしている。今年度は催されていないが、町内の芋煮会や保育所の夏祭りには毎年招待して頂いている。	例年とは違い家族等の面会も条件付きで業者も玄関での対応となり、新型コロナ禍の影響は避けられず地域行事も行われていない。その中で職員の子供や孫達による子供参観を行い、昔遊びや川柳などを詠んでもらい、子ども達との交流の場を作りひとときを過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	玄関にAED設置のステッカーを貼り、市のHPにも登録している。まちかど介護相談室の旗を掲げ地域貢献に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者・サービスの状況の報告は毎回行い、外部評価結果報告・家族アンケートの集計結果報告など、テーマを変えて、2か月毎に行っている。市の担当者・認知症地域支援推進員・区長・家族の方々の意見を聞ける貴重な場となっている。	運営推進会議は同一法人のグループホーム大手町と合同で開いている。現段階では紙面の会議となり、利用者の状況や行事などの報告事項・事業所内の様子等と返信用封筒を同封しメンバーへ郵送している。顔を合わせての会議と異なり、返信も少なく早く顔を見ての会議が出来るよう願っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に空き情報を報告している。担当者には運営推進会議への参加して頂き情報交換を行っている。	新型コロナ感染防止に配慮して市担当者からは運営推進会議に紙面で出席してもらい福祉情報や意見等をもらっている。利用者の居住地の福祉課とも連携して利用者へのサービスに繋げている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束のマニュアルを整備し、資料を用いた勉強会・回覧を行い全職員に周知させている。玄関の開閉は自動ドアの構造上、職員が行っているが、散歩や日向ぼっこ、ケアの一環としての外出は出来る限り行っている。玄関の施錠については防犯上の視点から現状のままを家族から願われている。	身体拘束マニュアルや資料を基にした研修会を行い、職員の理解を深めている。自由な暮らしをしてもらうため動線に危ない物を置かない、階段の上り下りには職員が必ず付くなど配慮し、見守りを徹底して拘束のない生活を実践している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の防止とその対応についてのマニュアルを整備し、全ての職員に周知し、資料の回覧や勉強会を行っている。職員間の連携を密にし注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料の回覧や勉強会にて学び、相談に応じる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の写しを事前に渡し、目を通してもらっている。契約前や契約時・契約後も疑問点には説明を行っている。改定時の説明は書面にて行い理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを行っており、その結果と意見・要望は家族にも知らせ、サービス向上に活かしている。また、運営推進会議でも取り上げ外部者への公表の機会を設けている。また、利用者の状態の変化には個別に面談するなど不安や本意を聞いている。	意見箱の設置はしていないが、毎年家族等にアンケートを書いてもらい、意見や要望を聞き内容を公表している。食べ物の要望などはメニューに取り入れて、話の種にもしている。日頃から感謝の言葉も多く聞かれ、職員の励みにもなりサービスの向上にも役立っている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議で意見や提案を聞き、その都度適切に対応している。また、法人内での情報の共有のため合同主任者会議も月に一回行い、足並みを揃えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年度は、特定処遇改善手当を新設し、更なる賃金改善を実施している。また小中高生を対象とした職員の子や孫に働く姿を見てもらう企画では仕事のやりがいを伝えることができた。		
13	(7)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度は外部研修を受ける機会が少ないが、所内研修にwebを活用した研修の機会も設けている。	内部研修の1つとしてウェブ研修を行い技術面での強化を図り、また職員で車椅子の階段昇降の実習を行い、大変さを実感している。職員が出来ない事よりも出来る事を認めて褒め、興味を持っている事を沢山学びスキルアップできるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	3か月ごとに行っている最上地区グループホーム連絡協議会で今年度は書面ではあるが情報交換を行っている。	最上地区グループホーム連絡協議会での活動としてコロナ対策など書面で情報交換している。今年は世間の状況を見ながらの活動になると思われる。これまでは交換実習に参加し、受け入れもしておりサービスの質の向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に担当ケアマネージャーから情報を聞き、また事前面談では必ず本人に会い直接話を傾聴している。本人の思いに応えられるよう、何をしたいか何が不安かを理解できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居面談や事前面談で家族が困っていること、不安なこと、要望等を聞き取り、情報を共有し関係作りに努めている。家族の延長のような暮らしができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅支援事業者のケアマネージャーや地域包括支援センター、必要に応じて主治医と地域医療連携を図りながら、本人・家族の思いも確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や片付け、洗濯物たたみをそれぞれの生活リズムを大切にしながら、共に行動し、出来ないところや手の届かない部分をお手伝いしている。その中で教わったり、共感して感謝の気持ちを持ち、言葉を交わしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際は必ず状況報告を兼ねて家族と話をしている。また毎月の便りで近況報告を行っている。遠方の家族や中々面会に来られない家族へは電話連絡で情報を共有している。状況変化時の対応方法についても、共に考えて対応するように努めている。年一回は家族会を催し交流を図っているが、現状では県内の方の短時間の面会でご理解を頂いている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に住んでいた近所の知人・友人・親戚・兄弟姉妹の方の面会や家族の協力で、自宅や馴染みの場所への外出をしている。旅館へ宿泊される方もいたが、現状では外出はご遠慮いただいている。通院時の対応は、ご家族に協力して頂いている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士が一緒にお茶の時間を過ごし、談話を楽しめるように配慮している。また、制作活動やレクリエーションを通じて利用者同士が協力し、交流を図れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設へ転居される際、これまでの生活環境、支援の内容、注意点などの情報提供を行い、これまでの暮らしの継続性が損なわれないよう心がけている。また、退去されて数年たった今でも家族の方が育てた花や野菜を持って来所してくださる等の繋がりがあある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前から行きつけの美容室に現在も通い気分転換されているが、現状では訪問理容を利用して頂いている。ご家族からの意向もあり、週一回訪問マッサージや通院後のドライブを実施されている方もいるが、現状では見合わせている。	職員は、自分の家族だったらどうするだろうと 思いを寄せ、家族の思いを利用者に伝え本人の意向を把握している。日々の暮らしでの気付きは、フロア会議等で話し合い、ささいな事でも共有している。訴えの困難な方に対しては、笑顔や表情から思いを推察し見逃さないよう心配りをして支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・親戚・ケアマネージャー等から情報を提供して頂き、生活歴・生活習慣や得意とすること等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の流れをシートに作成し、排尿ペースの把握や不穏時の行動、睡眠ペースの把握に努めている。また、毎日の引継ぎは、フロア内全員が周知できるように引継ぎノートを使用している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を取り入れながら、本人が快適に過ごせるように担当者で話し合い、介護計画を作成している。暮らしの中で見えてきた課題をチームで話し合い、意見やアイデアを出し合い介護計画に取り入れ、家族に確認して頂き、サインをもらっている。	利用者にとって何が必要なのかを一番に考え、その事の対策を担当者を中心にして個別支援会議を行い、意見やアイデアをもらい、また面会時に聞いた家族等の要望を入れながらケアプランを立案している。職員の関わり方で笑顔が増え話すことが多くなる等、変化が現れる事を実感している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・健康管理記録・ケアプランチェック表を活用し、職員間で日中・夜間の様子、状況の把握やケアを相談できるようにしている。職員間ノートの活用により統一したケアが行えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同町内にある公共施設の利用や、地域の催し物を把握し、利用者の個々の嗜好に合うものを勧め、本人の意向のもと参加を支援している。現状では外出を控えている。また、市報を読んで頂き地域の情報を取り入れている。		
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームの協力医だけでなく、入居前からのかかりつけ医への通院の継続をするかの選択を本人・家族の意向を踏まえ決定して頂いている。各かかりつけ医に相談しながら関係を築き、連携を深めるようにしている。	本人や家族の希望で入居時に毎月往診がある協力医に変更する方も多く、院内感染のリスクや家族の負担を軽減している。他の医療機関を受診する方には付き添いの家族に生活状況などの情報提供書を渡し持参してもらい適切な治療を受けられるよう努めている。	
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員と介護職員が毎日の健康管理や状態の変化に各々の視点からの意見を介して相談・連携し、適切な受診等を行っている。		
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	生活記録、健康管理記録も活用し生活介護概要表を作成したり、かかりつけ医の紹介状合わせ適切な医療を受けられるよう病院の相談員と情報交換や面談を行っている。		
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、重度化した場合の対応の指針を説明し、家族より同意を得ている。重度化に際しては、医師・家族・職員が本人の意向を踏まえて相談し、本人が以後適切な介護支援を受けられるよう対応している。	入居時に看取りはしないことを利用者や家族等に説明し理解を得ている。重症化し継続した医療措置が必要になったり口から食べられなくなるなど、グループホームでの生活が困難になった場合に備えて早めに他施設の利用申請を促し、本人や家族の方針に沿って対応し得る最大の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応をマニュアル化し、連絡網を作成・周知徹底に努め、目につく所に掲示している。救急の初期対応に関しては、救命救急手当の実演・演習を行い迅速に対応できるよう努めている。		
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火担当者が火災・災害に関する知識を職員に呼びかけ予防に努めている。避難訓練により、職員の意識付けを行い、消防署・防災設備業者より助言して頂き、改善に努めている。また、近隣の方からも協力して頂けるよう関係作りを行っている。	今年度はコロナ感染拡大防止の観点から近隣住民の参加を見送り、消防署立ち合いの下で水害を想定した訓練を実施し、併せて車椅子の階段昇降訓練も経験している。また毎月避難訓練の日を設け非常招集や備蓄品・非常持ち出しの点検なども行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が一人一人の性格を把握し、その方に合った声掛けと対応を行っている。職員同士で情報を共有しその方の気持ちの変化に随時対応できるよう努めている。	利用者のこれまでの環境や性格の違いを理解し、入居時の不安もこだわりや誇りを尊重する事で払拭し笑顔で生活できるように支えている。傾聴から得た主張はプライバシーに配慮しながら否定せずに、一人ひとりの求めに応じている。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の思いや希望を表して頂けるように日頃からコミュニケーションを取っている。職員と良い関係が築けており、本人の希望や自己決定を尊重できている。		
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが本人のペースで生活できるように配慮している。本人の希望を確認しながら活動・行事を進めている。		
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を自己管理できる方にはその日に着たい衣服を選んで頂いている。また、衣類の汚れ・ほつれ・破れ等に気づいた時には声をかけ洗濯または修復をし、気持ちよく着て頂けるようにしている。		
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の好き嫌いを把握し、食事を楽しんで頂いている食後の食器拭きに協力して頂いている。	食材宅配業者を利用し職員の手料理が提供され、毎月「ホームメニューの日」を設け旬の食材や郷土料理などが食卓に上り、長寿会(誕生会)では希望のメニューも出され楽しみとなっている。職員も一緒に会話をしながらゆっくり時間をかけて食べている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	配食サービスを利用し、栄養バランスやカロリーに気を付けた食事を提供している。一人一人の状態に合わせた食べやすい食事の形態を工夫している。水分摂取量が少ない方にはこまめに声掛けし提供している。		
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方には声掛け、出来ない方には見守り・介助を行っている。一人一人の口腔状態を把握し口腔ケアに努めている。		
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各々の生活リズムやタイミングに合わせ声掛けしトイレ誘導を行っている。訴えやトイレのサインを見つけた時には速やかに対応するように努めている。自立している方にも排便の確認をし健康管理している。	一人ひとりのパターンを把握し時間や細やかな観察でサインを見逃さず、トイレでの排泄を維持できるよう誘導している。夜間のポータブルトイレやおむつ利用など、一人ひとりの状態に合わせた介助をしている。	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘にならないよう下剤の調整を行っている。こまめに水分摂取を促したり、食事では乳製品の含まれる物を提供している。運動面ではTV体操や足こぎ運動を取り入れている。		
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態を確認し、本人の希望に合わせた入浴を行っている。一緒に会話をしながら楽しんで入浴して頂いている。入浴拒否のある場合は時間や日にちをずらして対応している。	入浴順や湯温などは利用者の好みに合わせ入浴剤で香りを楽しむ日もあり、浴室内では職員と二人だけの会話も弾み本音が聞ける貴重な時間となっている。また状況に合わせて二人介助や足浴しながらのシャワー浴など安全に配慮して温まってもらっている。	
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良眠して頂けるように、日中はレクリエーションや体操を取り入れている。一人一人の体調に合わせて、日中でも疲れた時には休んで頂けるように配慮している。夜間眠れない方には一緒に過ごしたり安心して眠れるような声掛けや対応をしている。		
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人のファイルに保管している薬の説明書を読み理解している。また、主治医や薬剤師の指示のもと注意事項に気を付けながら服薬支援を行っている。新しい薬が処方になった時には特に気を付けて状態観察を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に基づき利用者が楽しく作業や役割を行えるように支援している。また、季節の行事・長寿会・レクリエーション等を行い楽しみになるように工夫している。行事後には写真を掲示し楽しかったことを思い出して頂けるようにしている。		
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染防止のため外出は行っていない。以前はドライブや散歩、季節の行事として花見や祭りに行っていた。週に一回いきいき体操をしに外出していた。	例年はドライブや地域行事など様々な外出を行っていたが、コロナ禍で外出もままならなくなり、受診帰りの回り道ドライブなどで気分転換を図っている。今後は感染拡大防止に配慮しながらドライブや外気浴などを取り入れていく予定をしている。	
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談の上、使用できる範囲の所持を支援している。所持された場合は他利用者とのトラブルにならないように注意を払っている。本人がお金を持つことで安心して生活できるように支援している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴えに合わせて電話での対応をしたり、職員が家族に近況報告を行っている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒しないように家具の配置に気を付けている。また気温に応じて冷暖房の調整を行っている。掲示物は季節を感じられる物を利用者と一緒に作成している。	自粛生活のストレスをため込まないように居間で行うレクリエーションに力を入れ、体操や風船バレーなどで雰囲気盛り上げ、普段は動かない手足を思わず動かすなど効果を実感している。また利用者同士の相性を考慮した配席で穏やかに生活できるよう配慮している。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになったり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	仲の良い利用者同士、ソファやテーブル席に座りテレビを見たり会話をしたり、洗濯たたみをしたり、思い思いの活動を行っている。一人になりたい時は居室で過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人家族と相談し使い慣れた家具や寝具、馴染みの物を使って頂くことで居心地の良い空間で生活できるように工夫し支援している。	居室には洗面台と棚が備え付けてあり、ベッド・寝具・整理タンス・家族写真など、なじみの物を持ち込んでもらい自宅との違和感が無いよう配置し思い思いの暮らしをしている。職員は利用者のプライバシーを尊重しながら細やかに見守り、安眠や転倒防止に努めている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を第一に考え、転倒などのリスクをなくし安全な環境の中で自立した生活が送れるように支援している。		